

廬山の瀑布を望む（李白）

日照香爐生紫烟

遙看瀑布挂長川

飛流直下三千尺

疑是銀河落九天

解説 李白、廬山の屏風疊に隠居したときの作。

日は 香炉を 照らして 紫烟を 生ず

遙かに 看る 瀑布の 長川を 挂くるを

飛流 直下 三千 尺

疑うらくは 是れ 銀河の 九天より 落つるか

語釈 ※廬山は江西省九江県の南にある山。景色のよいところで、多くの峰や滝がある。※瀑布：大きな滝。※香爐は廬山の東南にある峰。南香炉峰をさす。※紫烟は山気が日光に映じて紫色にかすんでいること。※挂長川は落下する滝が川をたてかけたように見えること。※三千尺は非常に長いことをいう。※疑是は「か」と見まごうばかり。※銀河は天の川。※九天は天の最も高いところ。

通釈 太陽が香炉峰を燦々と照らしている。その香炉峰は紫色に霞んでいて美しい。遙か彼方に大きな滝が、長い川をたてかけたように流れ落ちて見える。その滝は飛ぶように真つ直ぐ三千尺も流れ落ちていく。まるで、それは、天の川が天空から落ちていくように見える。